

Vol.17

発行元：NPO法人22世紀
八幡ルネッサンス協会
八幡市八幡高畑 10-76
TEL・FAX 075-981-6505
発行：年4回

◆ 目次 ◆

八幡に生きる	… 1
弥生の至宝	… 2
やわたしぜんだより	… 4
活かそう水辺	… 6
ビオトープ見学会に参加して	… 8
介護保険 20 年を経過して	… 9
本の紹介	… 10
八幡 俳句歳時記	… 11
きずなの文芸／編集後記	… 12

八幡に
生きる

心温まる「やさしうた」
を届ける

デュオNAZUKI



今回は、京都・大阪を中心に活動するデュオNAZUKIの
お二人を紹介します。

のりさん（ボーカル&ギター）
は大阪府出身で、守口の小学校
では合唱団に所属しました。そ
こには、男の子が2人しかいな
かったのですが、歌うこ
とが好きなので気になりませ

ん。東大阪市の中学校ではブラ
スバンド部に入り、トランペッ
トを奏で、ギターを弾きました。
とにかく楽器が大好きで大人に
なつてからもアルトサククス、
ドラム、クラリネット、フルー
トなど多くの楽器にチャレンジ
しました。

枚方市へ転居し、公務員とし
て勤めるようになります。

1976年、地域の混声合唱
団に入団。のりさんはローベ
スを担当しました。合唱団では
合唱だけでなく、和太鼓や民謡
楽器演奏、音楽構成劇などにも
取り組みました。この音楽構成
劇で主役となったことがきっか
けで、1979年に同じ団員で
熊本県出身のマルちゃん（ボー
カル&パーカッション）と結婚。
ソプラノがパートのマルちゃん
は、お子さんの成長と共に、幼
稚園やPTAのママさんコーラ
ス、地域の女声合唱団で活動を
続けます。

その間、「関西合唱団」にも、
「二万人の第九」にも参加した
とのこと。指揮者が山本直純氏
から佐渡裕氏に交替したときか
ら約10年間、大阪城ホールで歌

いました。

その後、二人はもつと暮らし
に寄り添い、命や愛、平和や自
然をテーマにした楽曲に取り組
みたいと思うようになりました。
その間、のりさんは40余年
勤めた公務員を退職後に、音楽
イベントの企画・音響照明の業
務に従事します。

子育てが落ち着いた頃の20
08年6月に「デュオNAZU
KI」を結成。京都・大阪を中
心に各地で演奏活動を展開する
ようになります。

そんな折、通っていた伏見の
うたごえ酒場での勧めで「日本
のうたごえ祭典」に小編成の部
で出場します。伏見の地区予選
をクリアし京都府大会を経て、
2010年と2013年には
「日本のうたごえ祭典」のコン
クール形式による小編成の部で
銀賞を受賞しました。

「音楽ジャンルは何ですか？」
と問われることがあるとのこ
と。ギターを持っているので
フォークソングかと思われがち
だが、そうではなく、「やさし
うた」と答えるといいます。

デュオNAZUKIの演奏は

難しいものは一切なく、やさし
いものばかりなのです。ダー
クダックスやダ・カーポの歌声
に近いかな、とはにかみます。

ホームページを開設し、コロ
ナ禍にあつてライブ演奏ができ
ない代わりにユーチューブで歌
を発信。オリジナル曲「やさし
うた」で始まり、「はじめての日」
「手のひらを重ねてごらん」「い
のちの花」が聞こえてきます。
(www.3hp-ez.com/hp/duo-nazuki)
八幡市には、1988年に転
居。八幡市文化協会が主催する
「オヤジたちのコンサート」に
も出演し、ベストバンド賞を受
賞しました。

コロナ禍前には、橋本のコパ
ンや深草のオレンジハウスなど
のうたごえ喫茶に。京都円山野
外ステージで憲法集会にも出演
し、各地での平和コンサートや
敬老のつどいなどでも演奏して
います。今はただ、新型コロナ
が終息し、元の生活に戻り、思
う存分のステージが展開できる
日を待ちわびています。

ちなみに、NAZUKIは反
対から読めば「きずな」ですね。

（文・土井三郎）

弥生の至宝

銅鐸の話いろいろ(1)

濱田 博道

①銅鐸の時代その後

約500年間続いた銅鐸の時代は2世紀の終わり頃、終焉を迎えます。かわって呪術的なものとして重視され、祭器や権威の象徴・財宝とされ登場してくるのが「鏡」です。

八幡市の古墳からは弥生時代後期から古墳時代前期にかけて作られた鏡が30枚以上出土しています。鏡の中には中国で製作された鏡（舶載鏡）もあれば、日本（倭）で製作された鏡（倭製鏡）もあります。



↑石不動古墳出土・弥生時代の鏡
2世紀後半～3世紀前半・中国製
©ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

「銅鐸の時代」から「鏡の時代」へと変わっていったのです。そして当時、祭器・権威の象徴・財宝とされた鏡は現在も神社の御神体として祭られていたりします。

さて今回と次回、銅鐸についてのエピソードを紹介します。

②吉水神社

6月、奈良県吉野郡吉野町を訪れました。吉水神社の宝物・銅鐸を見るためです。吉野町といえば、一面の千本桜で有名で、桜の季節には観光客でにぎわいますが、訪れた6月は季節外れ、コロナ禍ということもあり、人影はほとんどありませんでした。

吉水神社は「もともとは吉野山を統率する修験宗の僧坊」で吉水院（よしのん）というお寺でした。しかし、1874年（明治6）「後醍醐天皇の皇居であったことから吉水神社と改められました」。「」内は吉水神社書院拝観券より）

主祭神は後醍醐天皇・楠木正成・吉水院宗信法印です。建立は白鳳年間（7世紀後半、天武・持統時代）とされています（社伝）。

吉水院は、1185年（文治元）源頼朝に追われた源義経、武蔵坊弁

慶、静御前が身を潜め、義経と静御前の最後の別れの場所となったことでも知られています。

また南北朝時代、後醍醐天皇が吉野にひそかに行幸した際、吉水院の宗信法印の援護を受けて吉水院に行宮（仮の宮）を設け、一時居所としていました。後醍醐天皇の崩御のあと、後村上天皇が後醍醐天皇の像を作り、吉水院に安置しています。



↑吉水神社
(奈良県吉野郡吉野町)

後村上天皇は後醍醐天皇の子で、第97代（南朝では第2代）天皇です。南朝の復興を図ろうと、1352年（正平7）、北朝の足利尊氏と対立し、八幡に陣を構え、籠城を続けていましたが、劣勢になり賀名生（奈良県

五條市）へ向かいました。その際、八幡が戦場（正平の役）となり、護衛の四条隆資卿ら300人が死んだことが『太平記』に書かれています。『新編日本古典文学全集56太平記3巻第30』小学館）

市民図書館前や法妙寺境内など八幡の各所に正平の役に関する石碑が建てられています。また、そのとき田中町の石清水八幡宮社務・田中定清の屋敷（田中殿）に行宮をおいたので、その記念として1928年（昭和3）石清水八幡宮関係者の手によって後村上天皇行宮跡の石碑が建てられました。



→後村上天皇行宮跡
(八幡市八幡垣内山)

③豊臣秀吉と銅鐸

本題の吉水神社の銅鐸について入っていきましょう。

書院の拝観受付で宮司さんに「銅鐸の写真撮っていいですか」と尋ねると「どうぞ、どうぞ」という返事。普通、現物の写真撮影は「ご遠慮ください」「撮影禁止」という場合が多いのですが、快く撮影を許可してくださったのはうれしかったです。



↑吉水神社(右)と書院(左)。中央に「南朝皇居」の石碑

銅鐸は本物が展示されていて、真近に観察することができます。銅鐸のそばには「豊臣秀吉より寄贈」の説明書きがあります。

1594年(文禄3)、豊臣秀吉は吉野で花見会を催し、5日間滞在し

←秀吉ゆかりの銅鐸(天のはんちやく)
高 84・5 cm 出土地不明 吉水神社にて筆者撮影



ています。吉水院はその本陣とされました。そのとき、いままでの戦いで功勞を挙げた武将に褒美を与えています。銅鐸はその褒美として挙がっています。

『日本の原始美術7銅鐸』(講談社1979)に次のような説明があります。「大和、吉野の吉水神社には、豊太閤ゆかりの銅鐸が伝えられている。秀吉は家臣源兵衛の武勇を賞し、当座の褒美として『天のはんちやく(銅鐸のこと)』を与えたという」。

銅鐸は当時、その貴重さが世間にはほとんど理解されておらず、鈕(吊り手)の部分の切り取られ、さかさまにして生花の器として利用されることがありましたが、秀吉は銅鐸の目利きをしていたことがわかります。

この銅鐸について江戸時代の国学者・平田篤胤が『弘仁歴運記考』に銅鐸の図と秀吉の書状を紹介しています。(下図)

④吉水神社の銅鐸

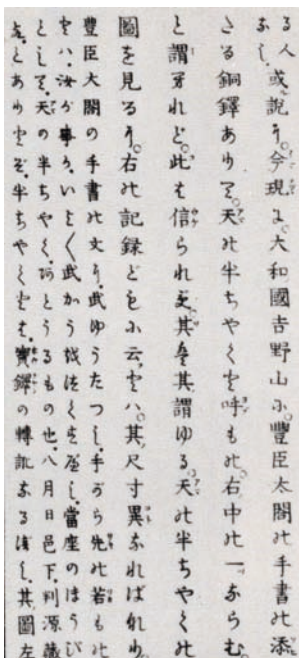
吉水神社の銅鐸

の高さは84・5 cmで、八幡の式部谷銅鐸(66 cm)より18 cmほど高いです。

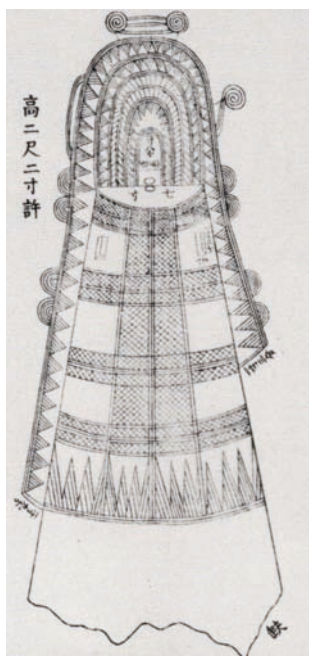
式部谷銅鐸と同じ型式の突線鈕3式

六区画袈裟褌文銅鐸です。「見る銅鐸」です。2つの銅鐸はほとんど同じころ(2世紀初め〜中ごろ)に作られた銅鐸です。

この「3式銅鐸」は突線鈕型式の5式ある中の3番目の古さです。その出土状況を関西の府県別にみると、滋賀県が一番多く13個、続いて大阪



→国会デジタル図
書館・平田篤胤『弘
仁歴運記考』より



府・和歌山県各5個前後、京都府3個(1個が式部谷銅鐸)兵庫県2個となつています。秀吉ゆかりの銅鐸は出土地不明ですので、この数の中に入っていません。そういう出土地不明の3式銅鐸が他に3〜4個あります。

④おわりに

吉水神社の書院は日本最古の書院、初期書院造りの傑作で重要文化財になっています。書院の南面には国名勝の庭園があります。それは秀吉が花見の際に造ったものといわれています。(続く)

やわたしぜんたい

No. 7 山村元秀

とんぼとたんぼ

内里・戸津・美濃山に広がる田んぼには、秋になるとたくさんのアカトンボが飛びまわります。トンボという名前はトンボがよく見られる「田んぼ」とか「どぶ」（湿地や溝）が、なまってできたという説もあります。田んぼとトンボの関わりを考えてみましょう。

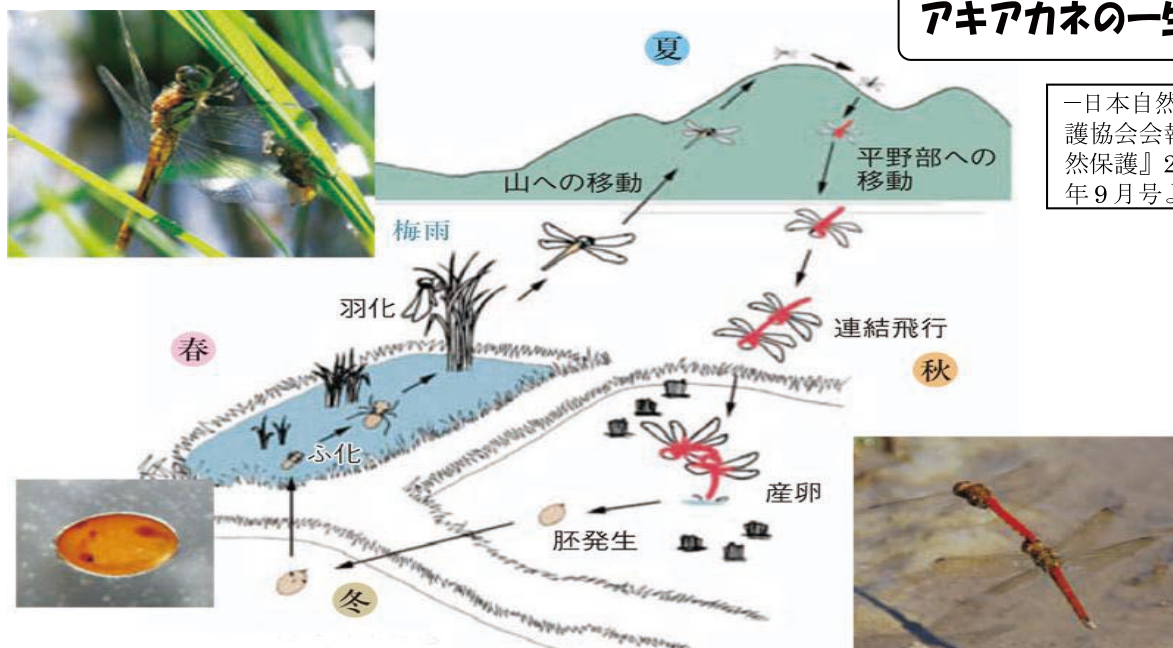
水田耕作の広がり大切にされてきた日本のトンボ

日本では赤トンボは大昔から様々な書物で表現されてきた特別なトンボです。「秋津島、瑞穂の国」の「秋津」とは赤トンボのことで「瑞穂」とはすばらしいイネのことですから、この国は赤とんぼ（秋津）がいっぱいいて、立派な稲穂が実るよい国という意味です。稲作が伝わった頃のイネ（古代米）は白ではなく赤や紫の色をしたお米でした。たわわに実った赤い稲穂の周りを群れ飛ぶ赤トンボに、大昔の人々は愛着を感じ、お米と同じように大切にしようと考えたのかもしれません。

トンボやホタルやカエルが育む田んぼを残すことが大切です

狭い日本にトンボは 200 近い種類がいます。その種類は広いヨーロッパ全体よりはるかに多いのです。日本にトンボの種類がこんなに多いのはなぜだと思いますか？ カエルや水生昆虫と同じように水陸両方で生活するトンボにとって、いたるところに田んぼとため池があった日本の自然は理想的な生活環境だったようです。「ヤゴ」というトンボの幼虫のことをさし示す言葉がある国は日本だけです。赤トンボの歌があり、昔からおとなにも子ども達にも親しまれてきた日本のトンボ。

田んぼは、決して米だけを生産しているわけではありません。赤トンボやメダカやホタルやカエルも育てています。定期的な草刈りによって多くの野草も育ちます。そんな身近にある田んぼでは遠くの山の中より、生きものの絶滅が急激に進行しています。収穫の時期を迎えた田んぼと生き物の関わりについても考えてみてください。



—日本自然保護協会会報『自然保護』2012 年 9 月号より—



同じような時期に同じような場所で見かけるアカトンボ「ナツアカネ」と「アキアカネ」の見分け方を説明しておきます。ナツアカネは 6 月頃羽化し、夏の間も遠くへは移動しません。

胸にある 3 本の黒い線の中央に注目してください。アキアカネは先がとがった形をしており、ナツアカネは先が角張っています。これが最も確実な判別方法です。

海を渡り何千キロも旅をする蝶—アサギマダラの不思議—

夏の琵琶湖バレイは前述したアキアカネの避暑地として有名です。山頂でアキアカネと一緒に乱舞する、とても優雅な蝶「アサギマダラ」を紹介します。京都の南部では宇治田原町と和束町の境にある鷲峰山でもよく見ることができそうですが、男山でも春と秋に時々見かけることがあり、去年も庭のフジバカマの周囲を飛ぶ姿に出会えました。

アサギマダラは、羽を広げると 10 cm ほどあり、アゲハチョウと同じくらいの大きさです。その名が示すように浅葱色のまだら模様をした美しく上品な蝶です。しかし、山地の林間を優雅に飛び、花に群がっている姿からは想像もできないような強力なパワーを秘めた蝶でもあることが、多くの研究者の調査からわかってきました。

この蝶は、日本列島を春には北上し、秋には南下するという大規模な季節移動をしながら、移動することによって、暑さや寒さをしのぎ、世代交代をくり返します。その美しさ、優雅さからは想像もできないほどの過酷な旅をする不思議な蝶です。

南下の主要なルートは、東北地方→関東地方→東海地方→紀伊半島→南西諸島→台湾と考えられています。他ルートも存在する可能性があるようです。このため、全国各地でこの「謎」の解明と「ロマン」を求めて、『マーキング調査』が行われています。

アサギマダラの幼虫は、キジョラン、イケマなどのガガイモ科の植物を食べます。これらの植物には有毒な成分が含まれていて、蓄積された毒は成虫になっても体内に残っているため、鳥などの餌食になることはあまりないようです。成虫はフジバカマやヒヨドリバナなどを好んで吸蜜します。



標識地がわかるような記号、標識者が特定できるような記号と個体番号、日付を書き込みます。
BV→琵琶湖バレイ

マーキング(標識)とは、チョウに「しるし」をつけることです。個体ごとに、決まったマーク(標識)をつけて放してやり、それがどこかで再捕獲されると、その個体の寿命や、移動分散の距離を知ることができます。その時に、カードに個体毎の標識とともに、性別・鮮度・前翅長・標識日時・標識場所・天候・気温や翅の破損状況などを記録します。

ボロギク3兄弟—ノボロギク、ダンドボロギク、ベニバナボロギク—

ノボロギクはヨーロッパ原産の1年草。明治始めに帰化し、畑などのほか道路のほたりや植栽枠の中などに普通に生育しています。真冬にも咲き、1年中見ることができますが、冬から春にかけて咲いているのがよくめだちます。

ダンドボロギクは原産地はアフリカ、ベニバナボロギクは北米産の帰化植物。法面などに生育しますが、放棄耕作地などにも見られます。

ともに森林の伐採後に群生し、森林域に侵入する帰化植物で、男山の斜面でよく見ることができます。花は8月の終わり頃から咲き始め、10月ごろまで咲きます。



ノボロギク



ダンドボロギク



ベニバナボロギク

アンモナイトの実？

秋になるとよく道端のフェンスに巻き付いているアオツヅラフジ。小さな花は目立ちませんが、小さなブドウのような実はよく見かけませんか？ この実をつぶしてみると種が出てくるのですが、なんとアンモナイトの化石にそっくり！ 秋の野山で実施する観察会では、いつもこの不思議な形の種を参加者に見せています。

なぜこんな形をしているのか不思議です。



活かそう水辺、つながろう流れ ～流域治水とグリーンインフラ～

NPO 法人日本水防災

普及センター理事長

澤井 健二

① 水系の管理区分と管理者

河川の本流、支流、派流など、お互いにつながっている河川の全体のことを「水系」と呼びますが、八幡市を流れる河川はすべて淀川水系に属します。淀川水系は流域面積でいうと全国で7番目に位置しますが、流域圏人口では、全国で1番ともいえるでしょう。このように、面積や人口など社会的重要度（影響力）の大きな水系は「一級水系」と呼ばれ、国が管理することになっており、現在、全国で109指定されています。そして、一級水系の中でも特に重要度の高い区間は「二級河川」に指定され、国、または都道府県によって管理されることになっています。一級水系の中にあっても、それ以外の区間の河川は「普通河川」と呼ばれ、市町村が管理することになっています。八幡市では、淀川と木津川は国（淀川河川事務所）の管理で、大谷川や

防賀川は京都府（山城北土木事務所）の管理になっています。また、形態は河川に似ていても、農業水路や都市排水路は市の管理であったり、農業団体の管理になったりしている場合もあります。

河川は一般的には「自由使用」と言って、だれでも自由に入って遊んだりできますが、他人に迷惑となるような行為をしてはならないのは当然です。例えば、テントを張って占用する場合などは届け出が必要となったり、許可が必要となったりする場合があります。また、排水機場の周辺や取水口の近くなどは、立ち入り禁止になっている場合もあります。川から水を汲み上げたり、堤防上に植栽を行ったりするなどは、原則禁止されており、それを行う場合は河川管理者の許可が必要となります。

市民あるいは団体が河川管理者に要望や意見を提出するには、直接申し出ることも可能ですが、市役所を通じて申し出たほうが効果（影響力）の多いこともあるでしょう。例えば、「川の駅 制度への応募などは市町村が行うことになっています。」

② 流域治水とは

最近、「流域治水」という言葉が頻繁に目にとまるようになってきました。「流域」というのは、降った雨が集まってくる範囲、すなわち「集水域」を表す言葉ですが、これに似た概念として、「流域圏」という言葉があります。これは、「流域」に加えて、流域から水が配られる範囲すなわち「配水域」、および洪水時に流域から水が溢れ出す範囲、すなわち「氾濫域」を含めた地域のことを指しています。治水というのは、本来「流域」あるいは「流域圏」単位で考えるべきもので、ことさら「流域治水」と言わなくてもよいようにも思えますが、これは、従来の治水がともすると河道の中で水を治めようとしてきた反省に立って、河道だけでなく、流域全体で水を治めなければならないということでしょう。「流域治水」という言葉には、このように、河道だけでなく、流域全体でという意味のほかに、「河川管理者」だけでなく、すべての「流域住民」が連携して治水に当たるという意味が込められているからでしょう。

上水道や下水道が完備され、整備された公園でしか水辺に触れていない日常の生活では、平常時には河川

を意識せずに過ごせるかもしれませんが、河川水位が計画を超過するような豪雨時になると、私たちは河川からの氾濫（外水氾濫）や下水道などからの氾濫（内水氾濫）の脅威にさらされるのです。このような氾濫災害を軽減するには、私たちはどのような備えをすれば望ましいのでしょうか。

③ 八幡市の主な水害と治水

八幡市近傍における大水害と言え、1868年（明治元年）7月19日、生津において木津川左岸堤が500mあまり決壊し、八幡では80日あまり、水が引きませんでした。そして、翌年の明治2年、現在の位置に流路変更が行われました。1953年（昭和28年）台風13号における水害も規模が大きく、浸水面積が1000ヘクタールに及んでいます。その後、大谷川の内水対策事業として、1965年（昭和40年）度に八幡排水機場が設置され、現在では排水能力が毎秒56トンに増強されています。2013年（平成25年）の台風18号による豪雨時には、綴喜西部土地改良区のポンプも合わせて、毎秒63トンの排水が行われましたが、浸水面積205ヘクタール、床上浸水30戸、へ

✓床下浸水856戸に及ぶ被害が発生しています。2017年(平成29年)10月22日の大雨では、沿川での浸水被害発生に備えて、総排水量343万トンの内水を排出しましたが、ポンプが稼働しなかった場合に想定された水位上昇は約2m、浸水面積は約376ヘクタール、浸水家屋約3300戸と推定されています。

一方、このような大水害を防止するため、淀川水系では、宇治川に天ヶ瀬ダム、桂川に日吉ダム、木津川上流部に、高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、比奈知ダム、布目ダムが相次いで建設され、さらに現在、川上ダムが整備中となっていますが、洪水を河道の中だけに押し込めて治水を図ることは限界があり、数年前には、伊賀市において上野遊水地が建設されました。この種の原型は古く、信玄公ゆかりの「霞堤」にも見られますが、このような大規模なダムや遊水地を建設するには、多大な費用がかかるだけでなく、場合によっては家屋や集落の移転を伴うことから、計画から完成までには長い年月を要します。そこで、最近注目されているのが、ある程度の氾濫を前提とした治水対策の考え方です。

これには、流域の土地利用につい

て、場合によっては規制を伴うことも考えられますが、人と自然との持続可能な共生を図るうえで極めて重大な視点です。近年、グリーンインフラとか Eco-DR (生態系を活用した防災・減災) という言葉に触れる機会が増えてきましたが、治水対策の観点からも大いに期待されます。

④巨椋池干拓地遊水地構想

京都市南部から宇治市、久御山町にまたがって、かつて巨椋池という大きな池があったことは、皆様ご存じのことでしょう。この池にはかつて宇治川、桂川、木津川の淀川三川が流れ込み、淀川水系の遊水地としての機能を果たすとともに、豊かな生態系がはぐくまれていました。しかし、豊臣秀吉の伏見城築城のおり、

宇治川が池の北方に付け替えられ、さらに1933年(昭和8年)から16年にかけて行われた干拓事業によって、広大な農地にその姿を変えました。ところが、1953年(昭和28年)13号台風のおり、向島の大黒地点で宇治川の堤防が決壊し、1ヵ月にわたって干拓地が浸水するとい

口にある瀬田川洗堰の操作と相俟って、宇治川の堤防決壊は回避されてきましたが、実は2013年(平成25年)台風18号による豪雨の際、宇治川では向島地点において計画高水位を超過する洪水となり、大変危険な状態にあったのです。

堤防が決壊すると、水流の勢いが一気に高まるだけでなく、大量の水が流れ込むことから、被害が極めて大きくなるので、なんとかそれを回避せねばなりません。そのためには、氾濫が生じても比較的被害が小さくして済むと想定される所の堤防を低くしておき、そこから計画的に越水させることが考えられます。もちろんそこでは絶対に決壊が生じないように、特に堤防を強化しておく必要があります。

淀川三川合流域において、そのような場所が考えられるかというところ、極めて難しいところですが、私はそれを巨椋池干拓地に求められないものかと考えています。巨椋池干拓地はその大部分が市街化調整区域になっており、住居の建築が規制されていますが、最近、大型の商業施設や物流施設の立地が進んでいます。水防災の観点からは、これ以上の開発は規制される必要があるように思

われます。

最後に、人と川(自然)との共生を歌った「川はだれのもの」(みなみらんぼう作詞作曲)を掲げて、この稿を閉じることにします。

♪山に降った雨のしずく

岩をすべり落ちて

やがて細い川となった

川は森で生まれた

川はだれのもの

住んでる魚のものかしら

それとも雨のものかな

森のものだろうか

♪村を下り町を流れ

川は海をめざす

鳥が遊ぶ虹がかかる

人の希望燃え立つ

川はだれのもの

岸辺の緑のものかしら

それとも鳥のものかな

人のものだろうか

♪いいえ どの川も

だれのものでもありません

生きてるすべてのものです

川はみんなのもの

ビオトープ見学会に参加して

佐藤 長作

◆私の動機

大谷川の清掃のボランティアとして川の果たす役割・機能あるいは防災について深く知りたいと感じています。ちょっとした川の構造的・物理的な変化が全体に及ぼす影響があるのではないかと。また、気候変動による動物・植物への影響を考えずにはいられません。そうした問題意識で参加させてもらいました。

京都大学防災研究所宇治川オープンラボトリー内のビオトープ見学を、「ぎずな」に寄稿されている澤井健二さん（NPO法人日本水防災普及センター理事長）にお願いして実現しました。7月下旬、私たちは4名で伺いました。

防災研究所は、京阪電車で京都方面中書島駅の手前右側に認められます。また、宇治川沿いの京街道に面しています。京街道はあまり認知されていないかもしれませんが……。以前から興味ある場所として存在していました。

◆研究所の立地

伏見区横大路に多くの観測・実験装置群を擁し、世界有数の規模を誇る総合実験施設です。研究棟は4棟あります。残念なことに、研究棟が第二京阪道路によって1棟が東西に分断されてしまったようです。ビオトープは、実験棟の立ち並ぶ中にあります。

◆ビオトープ+アルファの機能

ビオトープとは、「動物や植物が安定して生活できる生息空間」として定義されています。ムジナモ（食虫植物）、蓮は鉢植えにして繁茂しないようにコントロール、フジバカマは3年ごとに植えかえるそうです。オグラコーホネも観られます。ヨシ原の再現などもしています。外来種のジャンボタニシが棲息していて駆除が課題のようです。

このビオトープに、実験機能が追加されています。巨椋池^{おぐらいけ}周辺の地形を縮尺で再現していることです（現在、巨椋池は干拓され存在しません）。大きな水槽を備え宇治川の流れを再現、天ヶ瀬ダムから三川合流までの流れをつくり、宇治川、桂川、木津川の相互作用も再現できます。

この施設は、ボランティアの方々に維持されているそうです。維持管理も大変なのですが、いろいろな工夫されています。太陽光パネルの電力を利用して、掘った井戸の水を揚水ポンプでくみ上げ利用。電子工作の好きな私にはとても興味深く見学させてもらいました。

◆「ぎずな」16号で紹介された

「水車」を見学

「水車文化」っていいものです。私の子どもの頃（1956年生まれ）、橋を渡った対岸に村落共有の水車がありました。もちろん川から水を引き込み、水車を回していました。粉挽きの水車のようなでした。たぶん小麦を製粉していたのだらうと思います。「おきりこみ」という「手打ちうどん」の地粉を製粉していたのだらうと思います。杵が持ち上げられ、そして落ちる風景をずっと見つめていました。私の町は菟弱で有名な町です。ある時期まで製粉に水車を利用していました。産業遺産として取り上げられていました。澤井さんが粉挽水車を引き取り保存していることに感動しています。先人たちの知恵を伝えていくことの大切さを感じています。是非、皆さんに

見て頂きたいと思います！ 解体して再現する工程は大変なものです。それだけでも尊敬してしまいました。

◆さいごに

地球が誕生して48億年、それを365日1年で見つめると人類が誕生したのは12月31日大晦日24時近く、でも今人類は地球にとってもない負荷をかけています。気候変動はその現れと感じます。人類はこの今のシステムを良しとしてはいけないと思います。大谷川清掃ボランティアとして何ができるのだらうか……。



→巨椋池周辺の再現模型

介護保険20年を経過して

—上野千鶴子

『在宅ひとり死のススメ』

を読んで—

NPO法人介護の家

コスモス男山 理事長

井上一枝

①介護保険制度創設の背景

介護保険法が施行され20年経過して女性が介護を担う時代ではなくなったことはこの制度の大きな成果だと思っている。措置制度には無かったサービスの選択もできるようになった。介護保険前夜、家族介護が疲弊しつつあった時、その解消の手段として老人病院の存在があった。その頃、私はホームヘルパーとして福祉の世界に入った。高齢化社会の到来で様々な人達が社会的な発言をしていたことにも影響されたかも知れない。京都・山科にある某病院の名は、あまり良くない評判を伴って私の耳に入った。入院させられた高齢者は治療の必要性が無かった人達であった（所謂、社会的入院）。ベッドの柵は狭く、部屋は糞尿の臭いが充満し、全く以って非人間的環境に置かれていた。私の担当していたケースで、その病院へ入院するとシヨッ

クで死亡したこともあった。

②研修を重ねる

介護保険が始まって3年目に、既にこの制度を導入していたオーストラリア、ニュージーランドの海外研修に参加する機会があった。施設から在宅へと大きな流れはこれらの国も変わらないが、自由と個性を尊重するという人権意識の高さが印象的で、日本の特養にあたるナースィングホームの在所期間が6カ月という短さに驚いたり、個室で小鳥を飼っている風景もあったりで眼から鱗が落ちる思いがした。

③上野千鶴子の在宅観

さて、上野千鶴子は「在宅ひとり死のススメ」で一貫して介護保険の利用を勧めている。要介護者になり自らの最後を考えたとき、不安はあるだろうが訪問看護、訪問診療を利用すればひとり死は可能である。そのためには多くは必要ないが多少のお金は必要だ。認知症についても、長生きすればほとんどの人が認知症に罹る。地域社会が認知症を理解し受け入れていく必要性と地域社会の在り方を説いている。全く同感である。また、家族に遠慮してまで同居することは全くない、と。上野流の

ユニークで納得できる提言が散見され、読者の心配を払拭してくれそうに見える。彼女は社会学、ジェンダー研究の第一人者であるが、近年は高齢者介護の分野で論陣を張っている一人でもある。

閑話休題

一昔前、夫が某大学の大学院で聴講生として彼女の講義を受けたことを思い出す。彼女の著作「ケアの社会学」をテキストに7、8名の院生が円卓上に座り、その中央に彼女が位置し、飲み物を片手に切り出すのが毎回のスタートだったという。当時は珍しい産後間もない女子学生とリモートでの授業も並行して行われた。中年男の「追っかけ隊」が2、3人含まれていたそうである。

④「在宅ひとり死・・・」の

斜め読みと格差社会

この本では社会学者であるにも拘らず、ジェンダーや階級社会の矛盾には一切触れていない。少し違和感を持ちながら、やはり介護問題を社会の有り様の中に解決の糸口を見出さなければならぬと考える。「ひとり死」を準備していくためにはある程度のお金が必要だとは思いますが、現在の格差社会・階級社会の中では可能な人ばかりではない。介護保険開始

当時でも保険料を支払えずサービス停止に追い込まれた人もいた。当時とは違い、現在はさらに事態は悪化し、格差社会真つただ中にある。今をどのように生きていくのか、さまざまに生きている人たちはどうすればいいのか、大きな課題である。彼女は「ひとり死」の準備の中で大切なのはお金より人との繋がりを指摘したうえで、更に「共生社会」の実現に力点を置いていることに注目したい。

⑤おわりに

この「共生社会」を私たちが拒んできた原因の一つに、高度成長期からの豊かな（と思わされていた）生活にあるのではないだろうか。人間としての在り方よりも物質的な豊かさを優先、追及してきた生き方のツケは様々なところに現れている。まさに現在の自然災害やコロナウイルス感染がそうであろう。次世代を担う若者の行方も気になるが、少しでも解決する方向を見出すしか手立てはない。介護保険の利用を大いに勧めている上野千鶴子も、改定の度に後退する介護保険の危機について随所で問題提起をしている。

如何にすれば平穏な「在宅死」を迎えることができるか、考える時期が来たのではないだろうか。

◆ 書評 ◆

小笠原信



『清冽 — 詩人茨木のり子の肖像』

(後藤正治 著)

中央公論社、2010年

「寄りかからず」という詩で、一躍有名になった茨木のり子さんは、僕も好きな詩人。詩集としては異例の20万部越えのベストセラーで、ご存知の方も多いと思います。

16行程の短い詩、その後半、

もはや／いかなる権威にも寄りかかりたくはない／ながく生きて／心底学んだのはそれぐらい(略)／寄りかかると思えば／それは／椅子の背もたれだけ

茨木さんの詩(の大半)は、艶のある硬質、凜としていて、読んだ人を少しモラル的にする、少し上等にする。幾分かムチ打つ。

人と人々とのネットワークに倚りかかって生きて来た僕の背中をしばし真っ直ぐにする。

茨木のり子(本名三浦のり子、旧

姓宮崎)さんは、1926年(大正15年・昭和元年)大阪に生れ、幼少期から18才までを愛知県吉良町の開業医の家庭で伸びやかに育つ。父親の強い勧めで薬剤師の免許を得るため東京の帝国女子薬専に入学。「軍国少女」だったという学徒動員中の20才で無惨な敗戦。11年後に代表作の一篇「わたしが一番きれいだったとき」を書いた。

その冒頭と途中、

わたしが一番きれいだったとき／街々はがらがら崩れていつて／(略)わたしが一番きれいだったとき／わたしの頭はからっぽで／わたしの心はかたくなで(略)

戦後の一時期、戯曲や童話を書いたりするが、〈詩〉の欠如を感じ、詩に転じ、雑誌に投稿を始める。同人誌「權」を立ち上げ、地道ながらも詩の華は確実に咲いていく。

50才の時にもう一篇の代表作「自分の感受性くらい」を書く。その最終連「自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかものよ」は、本人を刺しているが、読者を一層深くと刺す。

後藤さんの丁寧至極の取材によれば、人には実に優しい上品な人柄だったとのことだが、美人でその凛とした佇まいと畏敬の念で、僕には近づ

けなかっただろう。

昭和24年、24才の時、母方の地縁で医師の三浦安信と結婚。文学に理解のある夫であり、茨木さんの詩人としての活躍は続く。しかし夫は昭和50年病死し、以後茨木さんは48才から30余年を寂しさと闘いながら生きた。詩人仲間として、執筆者として、韓国語の熱心な学習者、翻訳者として。友人・親戚を大切にする寡婦として。

2006年2月17日、東京東伏見の自宅で急死(血管系の病)。享年79。

この79年の充実した生涯の肖像画・評伝を、ノンフィクション作家の第一人者(八幡市在住、『きずな』16号一面を参照)が見事に書き上げられた! これは肖像画というよりも、文字による立体像の彫刻であり、僕の中で、茨木のり子像が再び三度立ち上った。素晴らしい評伝を支えている根底は、清冽な人生を残したい、手渡したいという後藤さんの「志」。その志を確実なものにしているのは、綿密丹念な〈取材〉だ。

現地取材の愛知吉良、母親の出身地の山形庄内平野の三川町、東海道の根府川、茨木さんの自宅、さらに納骨された山形県鶴岡市加茂まで

徹底している。近親者や編集者への取材はもちろん、彼女の幼少期の宮崎医院の看護婦さん、女中さん達。谷川俊太郎等の詩の仲間達、韓国語の永年の先生の金裕鴻さん。加えて彼女の著作や関連本、詩雑誌、そして書斎・日記まで——作家としての執念を感じる。

一人暮らしになった茨木さんを、週1回のお手伝いさんとして20年支え続けた岩川三子さんから、「いまでも(略)これからお手伝いにいきたくないあ」という言葉を引き出す。取材された方も、好きだった人のことが話せて幸せだったに違いない。

全篇を通じ、後藤さんは、場面・人物を的確に提示し、感想を付け加えない、付け加えてもごくわずか。文章は淡々として静か。評伝の最後の1行「そう、茨木のり子は静寂が好きだった。」そう後藤さんも静寂が好きなのだ。作品を静かに提示する。「文化は長い影響力を有する。」これは作家人生を貫いている後藤さんの信念であろう。好きな人のことを充分に調べて、書き遺す——その浄福が読む者にも伝わる。こんな秀れた作家が近くに住んで居られることを思うだけで、嬉しく誇らしい。どうか、一人でも多く、読んで頂きたい。

八幡俳句歳時記 13

わたしの俳句半生記

荒木 玲子

私が大阪信愛女学院に国語の教師として勤務していた時、同僚に土井千恵子さんという方がおられ、彼女は『茜』という俳誌と別冊詩文誌を発行しておられました。

私は『茜』の第2号より寄稿し、彼女の編集の仕事を助けるようになりました。

彼女は広島出身で、病院に勤務されていたとのこと。その折に、原子爆弾が落とされ、病院を離れることができず、それが原因で50歳代の若さで亡くなりました。

食事をとにもすることも多く、残念でなりません。

以後、俳誌を続ける人はいませんが、私の心はそちらに向きませんでした。

しばらくして、『刃冬』という俳誌に出会いました。主宰は増田斗志先生。

先生からは様々なことを学びまし

たが、先生も突然亡くなってしまいました。『刃冬』を続ける人もなくて、やむなく終刊になりました。

そこで、残された私たちは『刃冬』の名を使って山柴公民館で句会を続けました。ところが、2020年4月2日に脳出血となり、京都岡本記念病院と八幡中央病院の2カ所の病院に入院。ようやく6月末に自宅に帰りました。

今は「パナソニックエイジフリー ケアセンターひらかた」のデイサービスで、火曜と金曜に運動と精神面との指導をしてもらっています。

そういうわけで、死ぬ前に句集をと思い、これまで書留めていた句を拾い出し、文學の森社から『銀杏』と題して出版させていただきました。出版社からは、本の帯に記す句を10句出してとのことでしたので、同出版社で佳作に選ばれた句を並べました。

戦争を知らぬ議員や春疾風

リュック背に白髪の人昭和の日

私の雪堂の青さを引き立つる

秋茄子の色よし味よし我もよし

吾亦紅くれし少年エトランゼ

散歩する前にみゆるはみかんの木

竹馬や男のごとく我もまた

洋服の何を着ようかクリスマス

餅つきの子に親の手添へらるる

キャベツあり好み焼を作らむか

「洋服の何を着ようかクリスマス」を除いて他の句は、各々の主宰者の選でもあります。

ここで、京都新聞・俳句欄投稿句とその評などを紹介します。

◆坪内稔典先生選

【入選】

手に触れてみずにはをれぬ萩の花
《評》この気分がよく分かるなあ、「触らないください」と注意書きが立っていたりすると、いつそう触りたくなる。触れた途端に叱られるが。

【佳作】

ライオンを鞭で動かす天高し

【佳作】

眼力の衰へにけり白秋忌

※北原白秋は、晩年眼疾に悩まされた。

◆別紙・別便 撰者名(略)

【佳作】

冬の星面親のあり妹も

【佳作】(『現代俳句年鑑』より)

戦争を知らぬ議員や春疾風

【秀逸】 大串章主宰選

ふはふはと海月のごとき人なりし



ところで、『ぎずなの文芸』について一言。俳句その他すばらしい作品です。私など恥ずかしくてたまりません。また、他の頁もすばらしいと存じました。今後もぜひ続けてください。

■編集子より

荒木玲子さんの『銀杏』の中から好きな句を選んでみました。

老いて子に従ふことなき涼しきよ

少年の征きたるまや敗戦忌

病室を貫いてゐる秋日射

二天の著向ひに置き初御膳



『きずな』の文芸

《俳句》

蝸や夕餉の支度急かさるる

竜胆の群青深き伊吹山

新涼や翳の寂びゆく石仏

——淑子

盆踊りセピア色なる京町屋

句を詠みて一字浮かばぬ布袋草

雨傘を日傘となしぬ帰り道

——やすお

繋がれしままの川船行行子

油照り羽根付き餃子中食に

藤椅子に体預けて明日の事

——せい子

ことばだけがわたしの預金夜なべかな

月光に足から入れて肩より出す

秋風や五本の指はすべて墓

——信

蝸や風音がすか遠き亡母

秋立つやラケットの弦ピンと張り

露草や青く光りし路地歩む

——栄

くぐもる声背なに残して秋の暮

望月や猫にも小皿用意して

今年酒母手際良く飾り切り

——みやこ

親しげに肩とまりたる蜻蛉かな
朝顔や花卉の底へと虫を呼ぶ
対話する土と轆轤と秋の風

——瑞鶴

鴨川や黒猫半眼秋うらら

姫りんごおとこやもめの毀つ家に

とり壊す家の瓦や鬼やんま

——桂

新涼や鯉のあざとふ鏡伝池

吾が庭に赤とんぼ見る夜明けかな

頭から召せと女将や鮎の皿

——千

松嶋屋若き名取の秋拾

迷ひ出で何処に往くや秋の蝶

姉のごと夕顔吾を迎えけり

——重悟

桔梗咲く峠に遥か吉野川

吹き寄せて石畳美し紅葉茶屋

恒例の梨届く日の安堵かな

——亜矢

《川柳》

カマキリが草刈鎌に立ち向い

腰の物押さえて体操お巡りさん

七転び起きた途端に八つ転び

——笑楽

年寄りや接種二度目も無反応

暗い世に明るいニュース大谷さ〜ん

体調が悪いと嗅覚確かめる

——えつ

字句の訂正

お詫びして訂正いたします。

「きずな」16号12頁 「『きずな』の文

芸」2段目作者名

(誤) えつ ↓ (正) 桂

編集後記

今年の夏も大水害が発生した。通常、お盆頃には集中豪雨など発生しないのに、今年は8月11日頃から18日までに九州から四国・近畿・中部地方にかけて記録的な大雨となった。

佐賀・熊本・長崎・広島・長野などに土砂災害、道路冠水、浸水、河川氾濫が起り甚大な被害に見舞われた。大雨の要因は、「前線の停滞」と「二つの暖湿流の合流」といわれるが一過性のものとは思えない。それというのも、ヨーロッパやアメリカ、中国でもこの夏、歴史的な洪水やハリケーンが襲ったからだ。

今や地球は、「気候変動」の真つただ中にあると言える。

そんななか、今年、『人新世の「資本論」』（斎藤幸平著・集英社新書）が16万部を突破して売れているという。

「気候変動、コロナ禍……。文明崩壊の危機。唯一の解決策は潤沢な脱成長経済だ。」という触れ込みである。「人新世（ひと・しんせい）」とは、人類が地球を破壊しつつす時代とのこと。地球がいまや危機に直面しているというのだ。本書は、具体的なデータを根拠に問題の本質を見極め、解決策を提示していると思える。一読をお勧めしたい。

国連のIPCC（気候変動に関する政府間パネル）も「今の異常気象は人間が原因で、このままでは異常気象なり極端な気象による災害がもっと大きくなる」と警告している。

そんな時代にあつて、私達は何をすべきなのか。SDGs（エスディーズ）を実践していれば大丈夫なのか。もっと抜本的なことを考え実践しないといけないのではないか。ともに考え、意見交流したい。（D）

協賛金のご協力をお願いします

（郵）00940-8-196292 NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

（銀）京都銀行男山支店 普通預金 4165224 NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会